

## 基礎告示

告示等で定められたべた基礎の構造基準  
(最低限度守らなければならない仕様)

### 1. H12建告1347号

#### (1) 基礎の種類

地盤の長期許容応力度  $f$  (改良地盤は改良後の許容応力度)

$f < 20 \text{ kN/m}^2$  杭基礎

$20 \text{ kN/m}^2 \leq f < 30 \text{ kN/m}^2$  べた基礎 (杭基礎可)

$30 \text{ kN/m}^2 < f$  布基礎 (べた基礎・杭基礎可)

#### (2) 杭基礎

①土台の下には、鉄筋コンクリート造の基礎梁を設ける

##### ②基礎杭の構造

場所打ちコンクリート杭

主筋は、異形鉄筋6本以上、帯筋と緊結

主筋の断面積は、杭断面積の0.4%以上

高強度プレストレストコンクリート杭

JIS製品とする

遠心力鉄筋コンクリート杭

JIS製品とする

鋼管杭

肉厚6mm以上かつ直径の1/100以上

#### (3) べた基礎

①土台の下には、連続した立ち上がり部分を設ける

②立ち上がり高さ $H \geq 30 \text{ cm}$  (地上部分)、厚さ $b \geq 12 \text{ cm}$ 、底盤厚さ $t \geq 12 \text{ cm}$

③根入れ深さ $h \geq 12 \text{ cm}$  (基礎の底部を雨水等の影響を受けるおそれのない密実で良好な地盤 (地盤改良等) の場合は、

$h \geq 12 \text{ cm}$ とする必要はない) かつ凍結深度以上 (雪国)

##### ④鉄筋コンクリート造の基準

立ち上がり部の主筋

径12mm以上の異形鉄筋、上端及び下端に1本以上配置、かつ補強筋と緊結

補強筋 (縦筋・あばら筋)

径9mm以上、間隔30 cm以下

底盤の補強筋

径9mm以上、間隔縦横30 cm以下

換気口 周辺に9mm以上の補強筋

### 2. 住宅金融公庫「木造住宅工事共通仕様書」

1階の床下地面は、建物周囲の地盤より50mm以上高くする。